

ルリカケスの奄美大島金作原原生林における巣箱利用例

石田健¹・高美喜男²・植田睦之³

1. 東京大学演習林. 〒113 東京都文京区弥生 1-1-1 E-mail: ishiken@uf.a.u-tokyo.ac.jp

2. 奄美野鳥の会. 〒894 鹿児島県名瀬市古田町 8-10 E-mail: lidthi@po.synapse.or.jp

3. 日本野鳥の会研究センター. 〒191-0041 東京都日野市南平 2-35-2

E-mail: mj-ueta@netlaputa.ne.jp

はじめに

ルリカケス *Garrulus lidthi* は、奄美大島、加計呂麻島および請島にのみ生息する固有種で、1921年に国の天然記念物に指定され、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」では「危急種」に指定されている。群れで生活し、ヘルパーが観察され、音声コミュニケーションが発達し、スタジイのドングリを貯食するなど、生態的に興味深い多くの行動を示す(石田ほか 1990)。また最近縁種は、ヒマラヤ山地に生息するインドカケス *G. lanceolatus* だという説がある(山階 1941)。したがって、ルリカケスの個体群は遺存固有なものだと考えられ、生物地理学的、進化的にも興味深い。

生息密度は 1 km² に 1 群れ程度と比較的低いものの、若齢木やリュウキュウマツの混じった二次林にも生息し、人家にも営巣する(石田 1995)。しかし、人家の周辺には捕食者が多く、巣内や巣立ち後のヒナの生存率は低いと推測される(石田 1995)。

ルリカケスは、1月に巣作りを開始し、2~3月に産卵する。通常は3月中旬から4月にかけてヒナが巣立つ。ルリカケスの営巣場所としては、本来は樹洞が多かったようで(山階 1941)、樹洞としては、朽ちたオーストンオオアカゲラの巣穴(常田 私信)や大径木の根元にある洞(石田 1995、植田・山口 1995)などを利用する。そして、崖の岩だなや人家の中の棚などの閉鎖空間や軒下の「巣箱」などでの営巣例が多く知られている(石田ほか 1990)。

人家の閉鎖空間に営巣することから、捕食者の少ない森林内に巣箱を架けたところ、その内の1個に営巣したので、報告する。利用される巣箱の設置は、ルリカケスの生態の解明に寄与し、個体群全体の繁殖率を高める効果が期待できる。

金作原原生林における利用経過

著者らは、人家における軒下の巣箱営巣例を参考にして、1993年3月24日と27日に、原生林内の2か所の樹上に巣箱を設置した。巣箱は幅15cmのスギ板を材料にして、底辺が約43cm四方、高さ15cmの四角い箱とした。向き合った側面の対角の隅に、約10cm四方の入口を開けた(図1)。名瀬市金作原原生林内のイタジイの生木の枯れた梢端および住用村神屋原生林内の枯木の頂部をノコギリで水平に切り、その上に巣箱を針金と釘で水平に固定し

1997年12月24日受理

キーワード：巣箱、生態研究、保護、ルリカケス

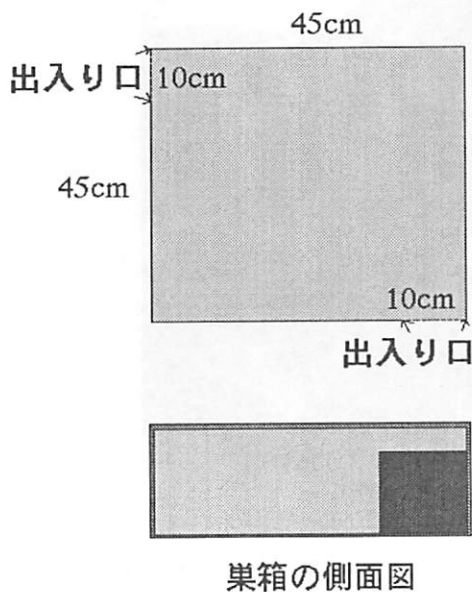


図1. ルリカケスが営巣した巣箱の構造。

Fig. 1. Structure of the nest box used by Lidth's Jay.



図2. ルリカケスが営巣した巣箱の外観。

Fig. 2. Picture of the nest box used by Lidth's Jay.

た、入口の向きは、ルリカケスが利用した場合に営巣活動を観察しやすいよう、一方の入口が最寄りの林道や斜面に向くようにした。

設置後3年目の1996年の繁殖期（3月中旬）まで、2つの巣箱ともに中に枯枝や枯葉などがなく、利用された形跡がないことを確認した。1996年12月10日に、金作原に設置した巣箱の針金が一部切れて落ちかけているのを見つけ、枝にひっかかった状態のまま再固定した（図1、図2）。この時、神屋の巣箱は確認しなかった。

1997年3月8日朝に、奄美野鳥の会会員の伊東一則・紀子両氏が金作原の巣箱に出入りするルリカケスを発見した。3月15日に、親鳥が巣箱を離れた時に巣箱内を自動焦点カメラで撮影し、4羽のヒナがいることを確認した（図3）。3月24日には、そばの林道から巣箱の中の雛の鳴き声を確認した。

なお、神屋の巣箱は同年3月19日に、落下・消失していることを確認した。

考 察

本来の営巣場所だと推測される、ルリカケスが営巣できるような樹洞のある老齢の大径木は、自然林の減少とともに近年非常に少なくなっており、代替の営巣場所を利用することになっていると思われる。しかし、そのような営巣場所は、地上から3m程度と低く、また巣へ

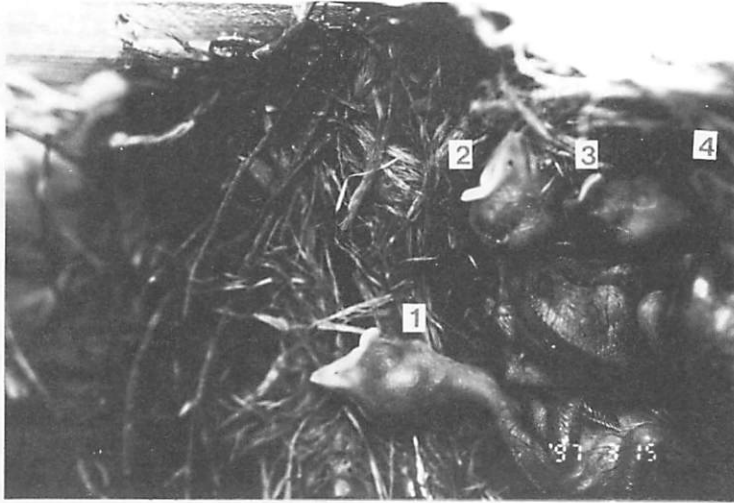


図3. 巣箱の中の4羽のルリカケスのヒナ (1997年3月15日).
Fig. 3. Four nestlings in the nest box (March 15, 1997).

の足がかりも多く、営巣場所周辺には、ハシブトガラス・飼い猫・マングースなどの捕食者が多く見られることから、被捕食率が高いと思われる (石田ほか 1990, 高私信, 高槻私信).

近年、原生林の孤立化が進み、面積が小さくなっているため、そこでの営巣場所が地上の樹洞などの場合にはハブに捕食される可能性が低くないと思われる。ハブの胃内容物には多くのルリカケスが見られている (南私信).

したがって、捕食者の密度が比較的低い地域の二次林や原生林の周辺地域の高い位置に巣箱を設置することによって、ルリカケスの繁殖成功率を高めることが可能だろう。林冠内とはいえ梢端に設置した巣箱が3年間利用されず、落ちて枝にひっかかった状態になって初めて利用されたことから、ルリカケスはある程度隠蔽された場所を営巣場所として好むことが示唆された (図2).

生物の個体群を保全するためには、初産齢・生存率・繁殖成功率などの個体群動態の指標や遺伝的多様性を調べることがたいへん有効である (鷺谷・矢原 1996, 矢原ほか 1997). そのために、また、ルリカケスの興味深い生態を明らかにするための営巣行動や給餌物の確認など多くの調査のためにも、捕獲・ヒナなどからの採血・ヒナなどの足環による標識、巣内の撮影・記録 (装置設置) など、いろいろな操作が容易な巣箱は有利である.

本報告の巣箱利用例は、今後の参考になると思われる。捕食率の低減や観察のしやすさのためには、直径10~15cm程度のエンピ管を巣箱の支柱とすることも検討に値するだろう。ルリカケスが自然林の中でよく利用し、かつ調査にも有利なように巣箱の条件を改良し、そのような巣箱を使ったより詳細な研究の行なわれることが期待される.

引用文献

石田健・金井裕・金城道男・村井英紀. 1990. ルリカケス *Garrulus lidthi* の分布, 生態および保護.

- 平成元年度環境庁特殊鳥類調査報告書. pp. 79-106. 環境庁, 東京.
- 石田健・樋口広芳. 1990. ルリカケス *Garrulus lidthi* の羽色と形態. 平成元年度環境庁特殊鳥類調査報告書. pp. 107-113. 環境庁, 東京.
- 石田健. 1995. ルリカケスは今一解明がまたれる興味深い生態一. 私たちの自然 (404): 16-19.
- 植田睦之・山口恭弘. 1995. 奄美大島におけるルリカケスの生息状況. 平成6年度環境庁希少野生動物種等生息状況調査 奄美大島希少鳥類生息状況調査報告書. pp. 61-73. 環境庁, 東京.
- 植田睦之・山口恭弘. 1997. ルリカケス・オーストンオオアカゲラ・カラスバトの環境選好性. Strix 15: 69-74.
- 鷺谷いづみ・矢原徹一. 1996. 保全生態学入門. 文一総合出版, 東京.
- 矢原徹一・巖佐庸・遺伝学普及会(編). 1997. 遺伝別冊9 生物多様性とその保全. 裳華房, 東京.
- 山階芳麿. 1941. 琉球列島特産鳥類三種の分類学的位置と生物地理学的意義に就て. 日本生物地理学会誌 3: 319-328.

A breeding record of Lidth's Jay in a nest box at a natural forest of Kinsakubaru on Amami Island

Ken Ishida¹, Mikio Takashi² & Mutsuyuki Ueta³

1. University Forests, The University of Tokyo, Yayoi, Bunkyo-ku, Tokyo 113

2. Amami Ornithologists' Club, 8-10, Furutamachi, Naze, Kagoshima 894

3. Research Center, Wild Bird Society of Japan, 2-35-2, Minamidaira, Hino, Tokyo 191-0041

Lidth's Jay *Garrulus lidthi* is an endemic and endangered species on Amami Island, northern most of Ryukyu Islands. It lives in a group and has helpers, communicates with variable calls and caches acorns. Its closest relative was supposed to be that of the Himalayas. Although it is an interesting species in ecology and evolutionary biology, there was little information on it. We reported the first example of nest box used in a natural forest. Nest boxes in a natural forest, short in natural cavities, will benefit the conservation and research of this unique species.

Key words: Lidth's Jay, conservation, ecological study, nest box